

事前評価個表

整理番号	32
------	----

地域（地区）名	わたらせがわ 渡良瀬川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	栃木県	対象市町村	鹿沼市ほか5市町
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>渡良瀬川地域は栃木県の南西部に位置し、北西部は日光火山群に連なり、この東方の山地帯、関東平野の一部を構成する平地へと続いている。総土地面積は169千haで県土の26%を占め、森林面積は73.3（うち民有林70.2）千ha、地域内の森林率は43%であり、このうち民有人工林は44.4千haで人工林率は63%と県内3流域の中で最も高くなっている。本計画ではこのうち4市1町を対象としている。</p> <p>北西部鹿沼市、また南西部足利市から佐野市にかけての山地はスギ・ヒノキの生育に適しており、古くから人工林施業による素材生産が盛んに行われ、日光林業地域、県南林業地域を形成している。南東部里山地帯は3つの県立自然公園を擁し、都市近郊からのアクセスも良く保健・休養の場として広く利用されている。また本地域内の森林は、地域内はもとより下流都県の重要な水源林となっており、水資源のかん養、山地災害防止に加え、地球温暖化防止等多様な公益的機能の高度発揮が求められている。</p> <p>本地域人工林は齢級構成のピークが 齢級前後となっており、利用期を迎えた充実した森林資源を有するものの、林業採算性の悪化や不在村森林所有者の増加等から林業生産活動の停滞や必要な施業の遅れが生じており、さらに近年では北西部の人工林ではシカ・クマによる林木への食害・剥皮被害が甚大であり、これらの対策が喫緊の課題となっている。</p> <p>このことから、本事業では低コストで効率的な施業を進めるための集約化を図り、～ 齢級の人工林については引き続き適正な森林造成を目的とした下刈、除伐を行うとともに、～ 齢級の林分については路網整備と併せた搬出間伐により材の搬出を積極的に進めていく。また公益的機能の高度発揮に向け、奥地等条件不利人工林の広葉樹林への誘導や、これら施業と併せ野生獣による被害への対策の実施や里山における多様な森づくりを推進していく。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,612ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,947,597千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 2.60 (総便益(B) = 10,058,592千円、総費用(C) = 3,861,590千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の現状からみて必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>充実期を迎えた森林資源を背景に、林業生産活動が持続的に実施されることによる山村地域の活性化や、適正な森林整備を通じた森林の持つ公益的機能の高度発揮が期待できる計画となっているとともに、費用対効果等の採択要件も満たしていることから平成23年度から本計画を実施することは適当である。</p>

便 益 集 計 表

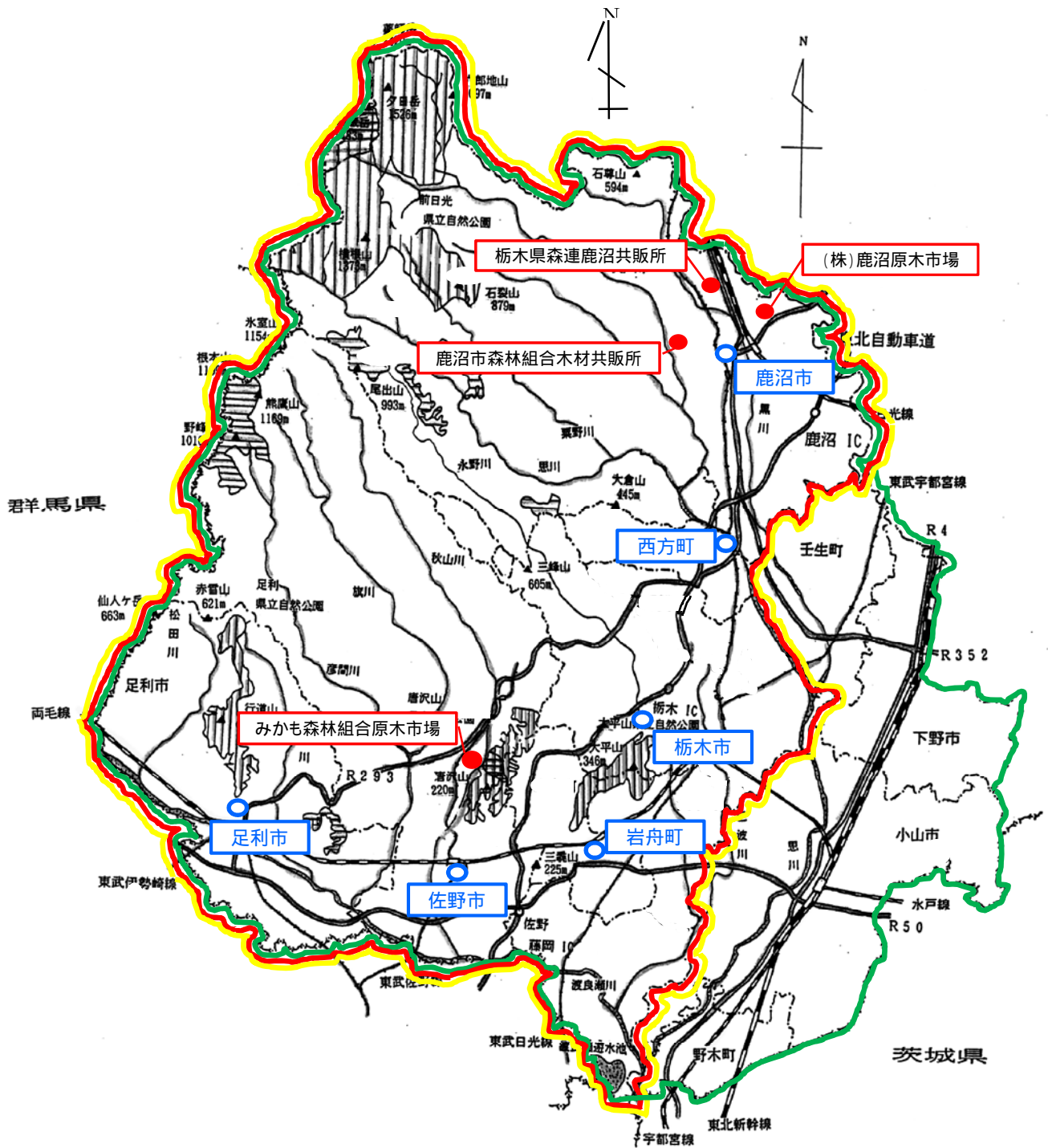
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 渡良瀬川

栃木県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,555,596	
	流域貯水便益	301,459	
	水質浄化便益	1,729,958	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,656,232	
環境保全便益	炭素固定便益	487,800	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	327,547	
総 便 益 (B)		10,058,592	
総 費 用 (C)		3,861,590	
費用便益比	$B \div C = \frac{10,058,592}{3,861,590} = 2.60$		

森林環境保全整備事業 渡良瀬川地域(栃木県) 概要図



栃木県内での位置



渡良瀬川地域

埼玉県

凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	